

# ボランティアを対象としたアンケート調査結果の報告

山本真弘

## 1 はじめに

全国の多くの博物館にボランティア組織が存在し、それぞれの博物館運営に協力している。当館でも多数のボランティアが活躍しているが、当館のボランティアは“考古楽者”として開館当時からハンズオン展示や様々な古代体験学習を提供し、参加体験型の博物館の特色を持つ当館の運営に欠かせない存在となっている。

当館のボランティアを対象としたアンケート調査は、前回平成27年9月に実施され、研究紀要第10号における「兵庫県立考古博物館を担うボランティアの現状と展望」の中で甲斐昭光と松岡千寿によって報告されている。今回5年ぶりにアンケートを実施し前回の調査結果と比較した。



また、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で当館も臨時休館となり、多くのイベント等も中止となった。それに伴い、ボランティア活動も大きな影響を受けた。特にボランティア活動の中心となっていた「毎日できる古代体験」については、コロナ禍後を見据えて、ボランティア活動のあり方、活動方法、指導に対する意識の変革等をする必要に迫られている。

## 2 令和2年度登録ボランティアの概要

|   | 現在登録者数    | 男       | 女       | 平均年齢        |
|---|-----------|---------|---------|-------------|
| ① | 28 [42]   | 17 [28] | 11 [14] | 73.1 [70.1] |
| ② | 31 [52]   | 19 [36] | 12 [16] | 72.5 [67.2] |
| ③ | 26 [41]   | 14 [21] | 12 [20] | 68.8 [60.3] |
| ④ | 33        | 20      | 13      | 61.8        |
| 計 | 118 [135] | 70 [85] | 48 [50] | 68.8 [66.0] |

- ① 第1世代 H14～H18考古学ボランティア(考古学者)養成講座受講
- ② 第2世代 H19～23受講
- ③ 第3世代 H24～H28受講
- ④ 第4世代 H29～R1受講 以下同様

表中の [ ] 内は平成27年度(前回調査)の数値

※全体の登録者数が118名、5年前の調査から17名(13%)が減少している。特に、第4世代の登録者数が第3世代の前回の数値に比べ8名減少している。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で「考古学ボランティア(考古楽者)養成研修」が中止され、来年度の実施も不透明であることから、登録者数の減少は来年以降も続く可能性が高い。ボランティアの確保に向けて、ボランティア組織と当館が協力して、積極的に現在登録者の歩留まりと新規者募集に取り組まなければならない。平均年齢が2.8歳上昇しているが、前回と比較して実質の退職年齢が上昇しているので妥当な数値であり、世代交代は順調に進んでいると考えられる。

## 3 アンケート結果について

調査時期：令和2年8月

調査対象：令和2年度登録しているボランティア118名

回 答：60名（回収率50.8%）

集 計：すべてのアンケート項目で、前回調査と同様にボランティアを第1～4世代に分けて集計した。

## I あなたのことを教えてください

|     | ① | ②  | ③ | ④  | 計  |
|-----|---|----|---|----|----|
| 20代 | 0 | 0  | 0 | 1  | 1  |
| 30代 | 0 | 0  | 0 | 0  | 0  |
| 40代 | 0 | 0  | 0 | 0  | 0  |
| 50代 | 0 | 0  | 1 | 5  | 6  |
| 60代 | 6 | 3  | 3 | 10 | 22 |
| 70代 | 7 | 12 | 7 | 2  | 28 |
| 80代 | 2 | 0  | 1 | 0  | 3  |

|   | ① | ②  | ③ | ④  | 計  |
|---|---|----|---|----|----|
| 男 | 9 | 11 | 5 | 10 | 35 |
| 女 | 6 | 3  | 7 | 7  | 23 |

※前回の回答数71名（回答率52.6%）に比べ減少しているが、新型コロナウイルス感染症の流行によるボランティア活動および来館機会の減少の影響が大きい。第4世代の20代は特別であるが世代交代は進んでいる。

|                    | ①  | ②  | ③  | ④  | 計          |
|--------------------|----|----|----|----|------------|
| ひょうご考古楽倶楽部へ入会している  | 14 | 12 | 12 | 13 | 51 (86.4%) |
| ひょうご考古楽倶楽部へ入会していない | 1  | 3  | 0  | 4  | 8 (13.6%)  |

※前回調査の「入会している」は77.4%であった。増加している。

|                        | ① | ②  | ③ | ④  | 計          |
|------------------------|---|----|---|----|------------|
| ひょうご考古楽倶楽部の同好会へ入会している  | 9 | 11 | 5 | 10 | 35 (60.3%) |
| ひょうご考古楽倶楽部の同好会へ入会していない | 6 | 3  | 7 | 7  | 23 (39.7%) |

※前回調査の「入会している」は63.3%であった。ほとんど変化していない。前回調査も第3世代の入会率が低かったが、この傾向は変化していない。

## II あなたの活動状況について教えてください

### 1 職業に就いておられますか

|        | ①  | ②  | ③ | ④ | 計          |
|--------|----|----|---|---|------------|
| フルタイム  | 1  | 0  | 0 | 7 | 8 (13.3%)  |
| パートタイム | 0  | 3  | 3 | 3 | 9 (15.0%)  |
| 就いていない | 14 | 12 | 9 | 8 | 43 (71.7%) |

※前回調査では「職業に就いてない」が69.0%だった。ほとんど変化はない。第4世代には「フルタイム」・「パートタイム」も合わせ、職業に就いている人が多い。

### 2 考古博物館以外でボランティア活動等をしておられますか

|                      | ① | ② | ③ | ④ | 計          |
|----------------------|---|---|---|---|------------|
| 不定期・臨時的に行ったことがある     | 5 | 3 | 2 | 4 | 14 (23.7%) |
| 他の施設にボランティア登録をしている   | 5 | 6 | 4 | 5 | 20 (33.9%) |
| 考古博物館のみで、活動も登録もしていない | 6 | 5 | 6 | 8 | 25 (42.4%) |

※前回調査では「考古博物館のみで、活動も登録もしていない」が39.4%だった。ほとんど変化はない。

### 3 考古博物館でのボランティア活動の頻度の目安を決めておられますか

|          | ①  | ② | ③ | ④ | 計          |
|----------|----|---|---|---|------------|
| 特に決めていない | 10 | 8 | 6 | 7 | 31 (50.8%) |
| 週に一度程度   | 4  | 5 | 5 | 2 | 16 (26.2%) |
| 月に一度程度   | 0  | 0 | 0 | 6 | 6 (9.8%)   |
| その他      | 1  | 3 | 1 | 3 | 8 (13.1%)  |

※前回調査では「特に決めていない」が59.4%であり、どの世代でも減少した。その分「週に一度程度」が増加している。第4世代には「月に一度程度」も多く、前回調査では無かった傾向である。

## 4 どんな日に考古博物館でボランティア活動をしようと思われていますか（複数回答）

|                                | ①  | ②  | ③  | ④  | 計          |
|--------------------------------|----|----|----|----|------------|
| 自分が活動しようと思った曜日等                | 10 | 6  | 7  | 7  | 30 (50.0%) |
| 都合のつく日はできるだけ                   | 3  | 5  | 1  | 2  | 11 (18.3%) |
| 団体予約（古代体験・展示解説）のある日            | 4  | 8  | 5  | 3  | 20 (33.3%) |
| 土日や夏休み等、体験学習室 1 等にお客様が多いと思われる日 | 3  | 2  | 1  | 6  | 12 (20.0%) |
| 講演会等でボランティアが少なそうな日             | 1  | 0  | 1  | 1  | 3 (5.0%)   |
| 学習支援課がシフト活動日を指定した日             | 14 | 11 | 11 | 12 | 48 (80.0%) |
| その他                            | 4  | 1  | 1  | 0  | 6 (10.0%)  |

※前回調査以降、シフト活動日の設定が始まった。前回調査の「都合のつく日はできるだけ」は33.8%であったが、大きく減少している。一方、前回調査ではなかった「学習支援課がシフト活動日を指定した日」が80.0%になっており、非常に多い。

## Ⅲ あなたの思っていることをお教え下さい

## 1 考古博物館ボランティアに参加された動機をお教えください

## 第1の動機と第2の動機の合計

|                                | ① | ②  | ③ | ④  | 計          |
|--------------------------------|---|----|---|----|------------|
| 好きな考古学などの知識を深めることができると思ったから    | 7 | 5  | 5 | 10 | 27 (45.0%) |
| 考古博物館や地域社会で何かの役割を果たせると思ったから    | 8 | 12 | 4 | 8  | 32 (53.3%) |
| 同期の仲間やボランティアの先輩とつながりをもち続けたかった  | 6 | 4  | 3 | 0  | 13 (21.7%) |
| ボランティアを通じて自分を豊かにすることができると思ったから | 6 | 7  | 7 | 12 | 32 (53.3%) |
| 考古博物館来館者の役に立ちたいと思ったから          | 2 | 2  | 2 | 5  | 11 (18.3%) |
| その他                            | 2 | 0  | 1 | 0  | 3 (5.0%)   |

※前回調査では「好きな考古学などの知識を深めることができると思ったから」が60.6%であった。大きく減少している。

## 2 実際にボランティア活動を続けてこられて、現在どのような喜びがありますか

## 第1の喜びと第2の喜びの合計

|                                  | ① | ② | ③ | ④  | 計          |
|----------------------------------|---|---|---|----|------------|
| 考古学や歴史学の知識が深まっていく喜び              | 2 | 4 | 5 | 6  | 17 (28.3%) |
| 自分の居場所があること、社会参画していることの喜び        | 8 | 8 | 4 | 4  | 24 (40.0%) |
| ボランティア仲間がともにいる喜び                 | 9 | 5 | 2 | 3  | 19 (31.7%) |
| 自分の技量、知識、経験等が深まり、視野が広がる等の喜び      | 3 | 3 | 8 | 8  | 22 (36.7%) |
| 考古博物館への来館者と喜びや驚きの共有をする、感謝される等の喜び | 8 | 9 | 5 | 12 | 34 (56.7%) |
| その他                              | 1 | 1 | 0 | 1  | 3 (5.0%)   |

※前回調査では「考古学や歴史学の知識が深まっていく喜び」が39.4%であり減少している。また、「考古博物館への来館者と喜びや驚きの共有をする」が43.7%であったが増加している。第1・2世代では「ボランティア仲間がともにいる喜び」が多い。

## 3 あなたは考古博物館にとって、どういう存在だと思っていますか（複数回答）

|                                   | ① | ②  | ③ | ④ | 計          |
|-----------------------------------|---|----|---|---|------------|
| サポーター・パートナー                       | 6 | 11 | 8 | 9 | 34 (56.7%) |
| スタッフの一員                           | 2 | 3  | 2 | 1 | 8 (13.3%)  |
| 考古博物館事業の補助者                       | 6 | 7  | 3 | 4 | 20 (33.3%) |
| 自己研鑽のために考古博物館を積極的に利用する生涯学習者       | 5 | 8  | 8 | 9 | 30 (50.0%) |
| 考古博物館の活動にとどまらず、地域の歴史文化遺産保存活用を行う人材 | 3 | 0  | 1 | 2 | 6 (10.0%)  |
| その他                               | 1 | 0  | 0 | 0 | 1 (1.7%)   |

※前回調査では「サポーター・パートナー」が28.2%であり倍増している。「自己研鑽のために考古博物館を積極的に利用する生涯学習者」も前回は18.3%であったが、増加している。

## 4 最も優先して活動したいと意識しているのは以下のどれですか

|                  | ① | ② | ③ | ④  | 計          |
|------------------|---|---|---|----|------------|
| 体験学習室 1 での古代体験指導 | 8 | 6 | 7 | 11 | 32 (53.3%) |
| 展示室等での展示解説・ガイド   | 2 | 8 | 2 | 1  | 13 (21.7%) |
| 来館団体への古代体験指導     | 2 | 2 | 2 | 0  | 6 (10%)    |
| ひょうご考古倶楽部同好会活動   | 3 | 0 | 2 | 6  | 11 (18.3%) |
| ④以外の考古博物館各グループ活動 | 1 | 1 | 0 | 2  | 4 (6.7%)   |
| その他              | 0 | 1 | 0 | 0  | 1 (1.7%)   |

※前回調査では「体験学習室 1 での古代体験指導」が28.2%であり大きく増加している。

## 5 実際に最も優先して活動しているのは以下のどれですか

|                  | ① | ② | ③ | ④  | 計          |
|------------------|---|---|---|----|------------|
| 体験学習室 1 での古代体験指導 | 8 | 9 | 6 | 11 | 34 (56.7%) |
| 展示室等での展示解説・ガイド   | 2 | 2 | 1 | 0  | 5 (8.3%)   |
| 来館団体への古代体験指導     | 2 | 4 | 3 | 0  | 9 (15%)    |
| ひょうご考古倶楽部同好会活動   | 4 | 2 | 1 | 5  | 12 (20%)   |
| ④以外の考古博物館各グループ活動 | 2 | 0 | 0 | 1  | 3 (5.0%)   |
| その他              | 0 | 1 | 2 | 1  | 4 (6.7%)   |

※前回調査では「体験学習室 1 での古代体験指導」が32.4%であり大きく増加している。「展示室等での展示解説・ガイド」はどの世代でも少なく、特に第4世代は0である。

## 6 体験学習室 1 での古代体験の指導をどのように考えておられますか

|                                                            | ①  | ②  | ③  | ④  | 計          |
|------------------------------------------------------------|----|----|----|----|------------|
| ボランティア活動の基本と考えている                                          | 14 | 14 | 11 | 12 | 51 (85.0%) |
| 今はできないが、古代体験の指導ができるようになれば積極的に関わりたい                         | 0  | 0  | 0  | 4  | 4 (6.7%)   |
| ひょうご考古倶楽部同好会やその他の考古博物館各グループ活動の活動等をしているので、自分の役割だとは強く意識していない | 1  | 0  | 0  | 0  | 1 (1.7%)   |
| その他                                                        | 0  | 1  | 1  | 1  | 3 (5.0%)   |

※前回調査では「ボランティア活動の基本と考えている」が78.9%であり増加している。「自分の役割だとは強く意識していない」はほとんどない。他のアンケート項目とも共通して、「毎日できる古代体験学習」をボランティア活動の基本と考えて重要視し、受講者（特に子ども）との交流を大切にしたいと社会に貢献しようとする意識が強い。

## 7 体験学習室 1 での古代体験メニュー（勾玉・石包丁・組紐・火おこし）の指導を 1 人でも出来るか

|         | ① | ② | ③ | ④ | 計          |
|---------|---|---|---|---|------------|
| 全てできる   | 7 | 7 | 7 | 7 | 28 (46.7%) |
| 3 つできる  | 7 | 5 | 2 | 4 | 18 (30.0%) |
| 2 つできる  | 1 | 1 | 3 | 2 | 7 (11.7%)  |
| 1 つできる  | 0 | 1 | 0 | 5 | 6 (10.0%)  |
| すべてできない | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 (1.7%)   |

|      |            |
|------|------------|
| 勾玉   | 51 (85.0%) |
| 石包丁  | 45 (75.0%) |
| 組紐   | 53 (88.3%) |
| 火おこし | 30 (50.0%) |

※前回調査とはほぼ同じ傾向である。また、指導できる古代体験メニューの傾向も同じである。

## 8 解説（展示・遺跡）をどう考えているか（複数回答）

|                            | ① | ② | ③ | ④ | 計          |
|----------------------------|---|---|---|---|------------|
| 幅広い来館者に対応できるようになりたい        | 4 | 9 | 6 | 8 | 27 (45.0%) |
| 特定の来館者層には対応できるようになりたい      | 1 | 2 | 1 | 2 | 6 (10.0%)  |
| 解説だけでなく、ガイド的な内容なら出来そうな気がする | 8 | 5 | 5 | 7 | 25 (41.7%) |
| 能力的・性格的に自分は無理だと思っている       | 2 | 1 | 1 | 2 | 6 (10.0%)  |
| その他                        | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 (6.7%)   |

※「解説だけでなく、ガイド的な内容なら出来そうな気がする」が前回調査では23.9%であったがどの世代でも大きく増加している。

9 考古博物館各グループ活動（ひょうご考古楽倶楽部同好会活動を除く）の活動をどう考えているか  
（複数回答）

|                                                                  | ① | ②  | ③  | ④  | 計          |
|------------------------------------------------------------------|---|----|----|----|------------|
| 考古博物館がサービス向上の責任上、ボランティアの意見を取り入れるために考古博物館各グループ活動を充実させようとするのは理解できる | 8 | 14 | 10 | 12 | 44 (73.3%) |
| 特に若い期のボランティアが、技術の取得や自らの役割を果たす場になっている                             | 8 | 5  | 2  | 3  | 18 (30.0%) |
| 自分は十分にスキルがあるので、考古博物館各グループ活動に入る必要がない                              | 0 | 0  | 0  | 0  | 0          |
| 参加したい考古博物館各グループ活動がない                                             | 0 | 0  | 0  | 1  | 1 (1.7%)   |
| 考古博物館の都合に自分の活動を縛られたくない                                           | 0 | 0  | 0  | 0  | 0          |
| その他                                                              | 2 | 2  | 1  | 3  | 8 (13.3%)  |

10 活動意欲はあるが、活動になかなか参加しない理由（家庭環境以外）（複数回答）

|                          | ① | ② | ③ | ④ | 計 |
|--------------------------|---|---|---|---|---|
| 今の学習支援課や考古博物館の考え方に不満がある  | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 今活動できる内容では、達成感や楽しみは味わえない | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 自分が頼りにされている感覚がない         | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ボランティア内の人間関係が煩わしい        | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他                      | 0 | 1 | 1 | 4 | 6 |

※その他の理由が多いが、その中には「仕事との両立」「以前からの流れがすでに決まってしまう」等の回答があった。

11 今後、考古博物館内で力を入れたい活動（複数回答）

|                         | ① | ② | ③ | ④ | 計          |
|-------------------------|---|---|---|---|------------|
| 展示の案内・解説                | 3 | 9 | 3 | 8 | 23 (19.2%) |
| 体験学習の指導                 | 6 | 6 | 7 | 7 | 26 (21.7%) |
| 体験メニューの開発               | 5 | 3 | 2 | 1 | 11 (9.2%)  |
| ボランティア後継者の育成            | 2 | 3 | 4 | 1 | 10 (8.3%)  |
| 考古学・歴史学の勉強・研究           | 2 | 9 | 2 | 9 | 22 (18.3%) |
| 講座・見学会・ワークショップ等のイベントの補助 | 7 | 4 | 6 | 9 | 26 (21.7%) |
| 特にない                    | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 (0.8%)   |
| その他                     | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 (0.8%)   |

※第2世代と第4世代には「展示の案内・解説」が多い。

12 今後、自由時間が増えたら何に時間を使うか

|                      | ① | ②  | ③ | ④  | 計          |
|----------------------|---|----|---|----|------------|
| 今以上に考古博物館に来て活動したい    | 6 | 3  | 2 | 10 | 21 (38.2%) |
| 他のボランティア活動等の時間を増やしたい | 1 | 2  | 0 | 1  | 4 (7.3%)   |
| 上記以外のことに費やす時間を増やしたい  | 2 | 10 | 5 | 3  | 20 (36.4%) |
| その他                  | 3 | 1  | 4 | 2  | 10 (18.2%) |

※前回調査では「今以上に考古博物館に来て活動したい」は33.9%であった。若干増加している。

「上記以外のことに費やす時間を増やしたい」が第2世代に非常に多い。

13 活動の範囲や考古博物館と「ひょうご考古楽倶楽部」との理想の関係について

|                                                    | ① | ② | ③ | ④ | 計          |
|----------------------------------------------------|---|---|---|---|------------|
| 考古博物館を飛び出して、他の場でも積極的・自主的・独自に活動する、考古博物館と対等のボランティア組織 | 2 | 1 | 1 | 1 | 5 (9.6%)   |
| 主に考古博物館施設を使用し、独自に活動する、館と対等のボランティア組織                | 6 | 6 | 7 | 6 | 25 (48.1%) |
| 考古博物館従属型のボランティア組織                                  | 3 | 2 | 3 | 6 | 14 (26.9%) |
| その他                                                | 3 | 4 | 1 | 0 | 8 (15.4%)  |

※前回調査では「考古博物館を飛び出して、他の場でも積極的・自主的・独自に活動する、考古博物館と対等のボランティア組織」が28.6%であり、大きく減少した。「主に考古博物館施設を使用し、独自に活動する、館と対等のボランティア組織」が28.6%から大きく増加した。

#### Ⅳ 昨年度（2019年）から今年度（2020年）にかけての事柄について教えてください

##### 1 『史跡大中遺跡保存活用計画』（令和2年3月策定）への理解度

|                                     | ①  | ② | ③ | ④ | 計          |
|-------------------------------------|----|---|---|---|------------|
| 保存活用計画を理解し、今後のボランティア活動の一部として取り組む予定  | 6  | 7 | 5 | 4 | 22 (37.9%) |
| 保存活用計画は理解しているが、ボランティア活動には反映するつもりはない | 0  | 1 | 0 | 2 | 3 (5.2%)   |
| 保存活用計画があることは知っているが、内容は詳しく知らない       | 10 | 6 | 6 | 7 | 29 (50.0%) |
| 保存活用計画があることも知らない                    | 0  | 0 | 0 | 4 | 4 (6.9%)   |

※ほとんどのボランティアが「史跡大中遺跡保存活用計画」の存在を自覚しているが、内容を詳しく理解していないボランティアが半分存在する。

##### 2 新型コロナウイルス感染症対策による考古博物館の臨時休館やボランティア活動の停止期間中の生活について

|                                           | ①  | ②  | ③  | ④ | 計          |
|-------------------------------------------|----|----|----|---|------------|
| 「食料品や医薬品の買い物」「通院」など、必要な外出以外、不要不急の外出は控えている | 10 | 10 | 10 | 7 | 37 (56.9%) |
| 日帰り旅行も宿泊を伴う旅行も控えている                       | 6  | 3  | 2  | 6 | 17 (26.2%) |
| 宿泊を伴う旅行等は控えているが、日帰り旅行には出かけている             | 0  | 0  | 0  | 4 | 4 (6.2%)   |
| 以前と同様の生活をしている                             | 2  | 2  | 0  | 2 | 6 (9.2%)   |
| その他                                       | 0  | 1  | 0  | 0 | 1 (1.5%)   |

※ボランティア活動の停止期間中、ほとんどのボランティアが生活の範囲を縮小し自粛している。

##### 3 館の開閉に関わらず、ボランティア活動の長期間の停止について

|                                       | ①  | ②  | ③  | ④  | 計          |
|---------------------------------------|----|----|----|----|------------|
| このような状況では、ボランティア活動停止もやむを得ない           | 14 | 13 | 12 | 18 | 57 (98.3%) |
| 考古博物館は過剰反応で、通常通りにボランティア活動は続けることができた   | 0  | 1  | 0  | 0  | 1 (1.7%)   |
| 考古博物館でのボランティア活動ができないので、他の博物館などで活動を始めた | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 (0%)     |

※ほとんどのボランティアが活動の長期間停止に理解を示し、自らの生活も新型コロナウイルス感染症対策を行っている。

##### 4 新型コロナウイルス感染症と共存した理想的なボランティア活動とは

|                                                  | ①  | ② | ③ | ④  | 計          |
|--------------------------------------------------|----|---|---|----|------------|
| 昨年度までのボランティア活動と同様で良い                             | 0  | 1 | 2 | 3  | 6 (10.2%)  |
| 新型コロナウイルス感染症対策を施すため、これまでのボランティア活動の方法を多少変更すべきである  | 12 | 9 | 6 | 12 | 39 (66.1%) |
| 新型コロナウイルス感染症対策を施すため、これまでのボランティア活動の方法を大幅に見直すべきである | 3  | 4 | 3 | 3  | 13 (22.0%) |
| 新型コロナウイルス感染症が無くなるまで、ボランティア活動は中止すべきである            | 0  | 0 | 0 | 0  | 0 (0%)     |
| その他                                              | 1  |   |   |    | 1 (1.7%)   |

※多少変更と大幅変更を合わせると88.1%となり、多くのボランティアが活動方法を変更する必要性を感じている。ただ、このアンケートは新型コロナ感染症の第2波・第3波が来る前の調査であるので、もう少し遅い時期に調査していればさらに増加すると考える。ボランティア活動の方法を変更する必要性を感じている。

##### 5 方法を変更する必要がある古代体験（複数回答）

|        | ①  | ②  | ③ | ④  | 計          |
|--------|----|----|---|----|------------|
| 勾玉・石包丁 | 8  | 9  | 6 | 9  | 32 (53.3%) |
| 火起こし   | 7  | 10 | 8 | 10 | 35 (58.3%) |
| 組紐     | 10 | 12 | 6 | 12 | 40 (66.7%) |
| その他    | 4  | 2  | 2 | 2  | 10 (16.7%) |

※古代体験の際、指導者と受講者との距離が近い古代体験が多い。

## 4 アンケートの結果から

アンケートの結果の多くは、全体数、世代別数とも前回調査と傾向に大きな変化はない。その中で次の3点が注目される。

- (1) ボランティア活動の目的に「好きな考古学に接する」や「人や社会に貢献する」としているボランティアが多い。その中でも前回調査に比べ、後者にも重点を置くボランティアが増えており、特にボランティア活動の中で、毎日の古代体験の指導に重要性や喜びを感じている。
- (2) II 4の「ボランティア活動をしようと思う日」について、「都合のつく日はできるだけ」が減少し、前回の調査後つくられた「シフト活動日」と答えたボランティアがとて多い。シフト活動日に合わせて来館しようとするボランティアが増加しており、希望調査をした上での割り当てではあるが、ボランティアが来館する後押しになっていると感じる。この意味でもシフト活動日の設定は意味あるものである。
- (3) 多くのボランティアが新型コロナウイルス感染症を意識し、生活やボランティア活動を縮小し自粛している。また、指導者と受講者の距離が近い古代体験学習の方法に改善の必要性を感じている。

## 5 コロナ禍における「毎日できる古代体験学習」への対応

新型コロナウイルス感染症の拡大により学校の休校や政府からの緊急事態宣言が発令され、当館も3月4日（水）～3月16日（月）、3月20日（祝・木）～6月1日（月）に臨時休館となった。その後、館は再開されたが、第2波、第3波の拡大により7月24日（祝・土）～9月14日（月）さらに11月20日（金）にはボランティア活動が中止されている。結局、「毎日できる古代体験（勾玉）」の指導及び補助は10月13日（火）～11月12日（木）のみとなった。

今年度の「毎日できる古代体験」は、新型コロナウイルス感染時に重症化リスクの高い高齢者が多数を占めるボランティアによる指導は休止し、学習支援課の職員が中心となり実施した。開館中は体験学習室1のみを利用し、ソーシャルディスタンスを保つため、勾玉のみを実施し、石包丁・火起こし・組紐は休止することとした。また、勾玉（石包丁）についての指導方法の変更については、学習支援課が提案し、火起こし・組紐についての実施方法については各グループに提案していただくこととした。

### (1) 勾玉（・石包丁）

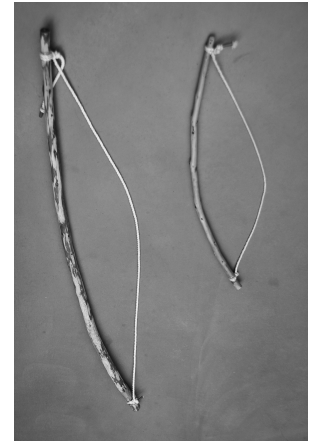
①勾玉のみを実施する。②マスクを着用し、机・椅子・道具等のアルコール消毒を実施する。③グループ間にはパーテーションを置く。④学習支援課職員が講義形式で実施する。⑤1日3回（10：30～、13：00～、14：30～）の実施。⑥1回の実施時間は60～70分とする。⑦体験学習室1で1回につき3グループに限定し、1グループの人数を4人以下とする。⑧指導者は受講者との距離を保ち、受講者の勾玉、道具類には触れない。

指導者が受講者の勾玉に触れずに距離を置いて指導するため、以前と比べ出来上がりのクオリティーは低い。しかし、大部分を占める子どもの受講に対しては、保護者の力を借りて勾玉づくりを行うため、子どもと保護者が協力して勾玉づくりを行うほのほのとした時間を提供できるというメリットもある。10月13日（火）～11月12日（木）の間、ボランティアが指導や指導補助に入る時期があったが、これまでの感覚で受講者との間に距離が保てなかったり、受講者の勾玉や道具類に触れたりすることが多かった。これまでのやり方を変更し、新型コロナウイルス感染症対策を意識しながら

指導するという自覚を持つことの難しさを感じた。

(2) 火起こし・組紐（改善策を検討中。未だ実施は再開されていない）

マスクの着用や使用器具のアルコール消毒徹底はもちろんのこと、ソーシャルディスタンスについて、いろいろな対策方法をボランティアの皆さんに試行錯誤していただいた。その結果、火起こしでは人と人との距離を保つため、弓キリ式の弓の長さを再検討し、弓の長さを70cmから100cmにすることとなった。また、火種の火を大きくするために、以前は息を吹きかけていたのを、団扇等の道具を利用する方法を提案していただいた。組紐に関しては、受講者と指導者の距離が近いため、抜本的な改善が必要である。



## 6 最後に

今回のアンケート結果については、コロナ禍でのアンケート結果であるので、単純に5年前のアンケート結果と比較することはできない。世代交代が進み、新しいメンバーが増えているもののボランティアの数は減少している。また、今年度に関しては、登録しているが実際にはボランティア活動の中止・自粛等で博物館にあまり来館できていないボランティアも数多くいる。これまでと同様に来館できているボランティアもいるが、新型コロナウイルス感染症の問題が落ち着いたとしてもボランティア活動が再び活性化するためには時間もかかるし、何らかの積極的な対策を行う必要がある。博物館とボランティアはWINWINの関係である必要があり、ボランティアも対等な関係を希望している。博物館にとって、ボランティアの来客対応や取り組みは来館者やリピーターを獲得するために欠かせないものであるし、ボランティアにとっては活動の場所や社会貢献の機会を得ることや、考古学の学習や最新情報を得るために、学芸員の知識・経験が必要である。今回のアンケートで「史跡大中遺跡保存活用計画」の内容を知らないと答えたボランティアが半数いたが、館とボランティアが互いに意思疎通を図り、いま以上に当館のボランティア活動を発展させていく必要がある。